

## 1 大会要領

- (1) 試合はすべて7回戦とする。
- (2) コールドゲームは5回以降7点差とし、雨天等によるコールドゲームは、5回戦で成立する。
- (3) ベンチは若番が1塁側で先攻とする(ブロック大会はトスにより先攻・後攻を決める。)
- (4) 選手は試合開始予定時刻30分前までには集合し、試合のできる態勢にあること。  
~~試合開始予定時刻になっても選手が10人揃わず、プレーができる状態になっていない場合は、棄権となる。~~
- (5) シートノックは5分以内で終了すること。ただし、略することもある。ノッカーも選手と同一の服装とする。(市民野球大会はシートノックを省略する)
- (6) 延長戦は行わず、続きは特別延長戦を適用する。  
※ 継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者として、二塁の走者は順次前の打者とする。  
すなわち、無死一、二塁の状態にして1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。  
なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。この間、選手の交代は自由である。
- (7) 試合開始後1時間40分を過ぎたら、新しいイニングに入らない。
- (8) 事務局の指定した日程・球場の変更はこれを認めない。又、各チーム間で試合を消化することも認めない。
- (9) オーダー表は前試合の5回終了時に提出すること。

## 2 実施要領

- (1) プレイヤー、審判に対する個人攻撃を厳禁する。犯したときは、審判又は控審判が注意を与える。再度注意を与えてもきかないときは退場させる。
- (2) 抗議は、当該プレイヤーと監督又は主将のいずれか1名とする。
- (3) ストライク・ボール・セーフ・アウト・ファール・ハーフスイング等の判定に対しては抗議できない。
- (4) 2回目以後の投手の投球は3球以内とする。なお、1回目と投手交替のときは、6球以内とする。
- (5) 次打者は必ず低い姿勢で次者席へ入る。
- (6) 打者がみだりにバッターボックスをはずした場合、審判員はタイムをかけず投手の投球に対し、正規のカウントを宣言する。
- (7) 攻守交替は駆け足を実行させる。実行しないときは、審判が注意を与える。ただし、投手に限り、内野地域内は歩いても差支えない。

(8) 投手が捕手のサインを見るときは、必ずプレートについて見ることを厳重に実施させる。

(9) タイムの制限

① 試合中選手がスパイクの紐を結びなおすためのタイムは認めない。

② タイムは1分間を限度とする。

③ 捕手を含む内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数を7イニングの試合では3度以内とする。ただし、監督またはコーチと共に行った場合は除く。なお、延長戦になった場合、2イニングに1度行くことができる。

(10) 内野手間の転送球は、守備についた最初の1回のみとする。1死後、2死後はその場から、直ちに投手に返球する。

(11) 選手は、むやみにベンチを出てはならない。

(12) フェアプレーに徹し、ラフプレーを慎み攻守交替は敏速に行うこと。

(13) ファウルボールはベンチ両側で各々処理する。

(14) 試合後のグラウンド整備は、原則として勝ちチームが行い、空缶・空瓶等のゴミは必ず持ち帰ること。

(15) ユニホームの規定

① ユニホーム・帽子・ストッキングは全員、同色・同形・同意匠のものを着用すること。

② アンダーシャツは全員、同色のものでなければならない。

③ 胸のチーム名は日本字、ローマ字どちらでもよい。胸にマークを着けてもよい。

④ 袖の長さは両袖同一で、左袖に県名（日本字かローマ字）を着け、左袖には他のものを着けてはならない。なお、右袖には社章・商標・クラブのマスコット等を着けてもよい。

⑤ 背番号は、0～99番とし、監督=30番、主将=10番、コーチ=28番・29番に統一する。00～09番は使用できない。

⑥ ユニホームの背中に選手名を着ける場合は、背番号の上にローマ字で「姓」のみとする。ただし、同姓の者がいる場合は、名前の「頭文字」を入れることができる。

⑦ 打者・走者及び次打者は、ヘルメットを装着すること。

⑧ 捕手は、レガース・プロテクター・ヘルメット・ファウルカップを装着すること。